

令和3年度 事業報告書

(期間：令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

社会福祉法人 明石市社会福祉協議会

社会福祉法人 明石市社会福祉協議会

令和3年度 事業報告

令和3年度 事業報告

■社会福祉事業区分

I 法人運営事業拠点区分	6頁
II 地域・ボランティア活動事業拠点区分	14頁
III 共同募金配分金事業等拠点区分	26頁
IV 介護保険事業等拠点区分	30頁
V 基幹相談支援センター拠点区分	32頁
VI 後見支援センター拠点区分	36頁
VII 地域活動支援センター事業拠点区分	42頁

■公益事業区分

I 総合福祉センター管理運営事業拠点区分	46頁
II 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分	50頁
III 地域総合支援センター事業拠点区分	54頁



マークの記載がある事業は、共同募金の配分金を活用して実施した事業です。

令和3年度 重要事業の取り組み

(1) 第3次地域福祉活動計画の策定

「すべての人が支え合い 助け合い 安心して暮らせるまちづくりを 地域と共に」を基本理念とする、「明石市社会福祉協議会第3次地域福祉活動計画」（計画期間：令和4年度(2022年度)～令和7年度(2025年度)）を策定しました。

策定にあたり、地区社会福祉協議会、ボランティア、民生児童委員、関係機関等からご意見をいただき、4年間で進める活動目標を以下のとおり設定しました。

- ① 住民と一緒に考え、誰もが参加できる地域福祉活動のしくみづくり
- ② 住民の声を受け止め、寄り添う、包括的な相談支援体制の構築
- ③ 地域共生社会の伴走者であり続けるための、明石市社会福祉協議会の体制強化

(2) 地域支援体制の強化に向けた取り組み

ボランティア等との継続的な地区での関わり、生活支援コーディネーターとの協働を促進するため、中学校区単位での事業推進を図ってきました。ボランティア相談に対応する中で、ボランティア活動への参加支援やボランティアサポーターとの協働等でスムーズな調整に結び付けました。また、就労的活動の普及に向けた取り組みとして、社会福祉法人連絡協議会加入法人等へのアンケート調査を実施し、協働して取り組むことができる活動の検討を始めました。

また、共生社会推進の発信拠点である総合福祉センター新館では、障がい者等の作品を展示したり、地域の障がい者スポーツ指導員の組織である「あかしパラスポネット」と協働でイベントを実施するなど、スポーツ等を通じて障がいへの理解推進に取り組みました。

(3) 総合相談体制の充実と重層的支援体制整備に向けた取り組み

相談者が抱える困りごと等を受け止め、相談者の属性や世代等を問わず相談を受け付け、その後適切な部署や関係機関につなぎました。特に、相談者の困りごとをいったん受け止めることを本会内で共有し、丁寧に対応しました。対応するなかで、複雑化・多様化した問題を有した相談については、地域総合支援センターが支援会議を主催するなど支援機関間で支援の方向性や役割分担等の協議をして、解決に向けて取り組みました。さらに、重層的支援体制整備事業の構築に向けて、個別事例からの地域課題や連携課題に関して、関係機関と共有・検討を重ねました。

(4) 市社協組織体制の強化

複雑・多様化する地域課題を解決していくため、多様な資格や経験のある職員を採用するとともに、研修の実施や外部研修に参加するなど職員の能力向上に努めました。

また、情報管理ネットワーク環境の整備により、リモート会議の導入や本会内部での情報共有環境を構築したことで、オフィスワークの円滑化など業務改善を図りました。

(5) 新型コロナウイルス感染症への対応

県社協が実施する生活福祉資金（新型コロナウイルス特例貸付）の受付事務や、令和2年度に実施した「生活資金貸付」や「学業資金貸付」の借受人に対する返済相談などを行いました。

また、新型コロナワクチン接種について、障害などでかかりつけ医や通常の集団接種会場での接種が困難な方を対象に市民病院で実施した集団接種で、市から委託を受けて、受付、接種誘導、予診票記入補助受付、接種後の経過観察などの接種支援業務を行いました。

■令和3年度 明石市社会福祉協議会

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
事業活動収支	収入				
	会費収入	11,653	11,701	△ 48	
	寄附金収入	1,300	1,072	228	
	経常経費補助金収入	133,946	128,344	5,602	
	受託金収入	238,280	233,727	4,553	
	貸付事業収入	11,722	8,442	3,280	
	事業収入	2,235	520	1,715	
	介護保険事業収入	686,001	627,690	58,311	
	障害福祉サービス等事業収入	25,056	24,973	83	
	受取利息配当金収入	104	20	84	
	その他の収入	1,067	886	181	
	事業活動収入計(1)	1,111,364	1,037,374	73,990	
	支出				
	人件費支出	851,275	806,695	44,580	
事業費支出	131,734	120,523	11,211	執行残	
事務費支出	73,595	44,587	29,007	執行残	
貸付事業支出	5,318	4,825	493		
助成金支出	33,706	25,783	7,923		
事業活動支出計(2)	1,095,627	1,002,413	93,214		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	15,737	34,961	△ 19,224		
施設整備収支	収入				
	固定資産売却収入	0	33	△ 33	
	施設整備等収入計(4)	0	33	△ 33	
	支出				
	固定資産取得支出	10,808	7,238	3,570	
	固定資産除却・廃棄支出	1	0	1	
ファイナンス・リース債務の返済支出	860	860	0		
施設整備等支出計(5)	11,669	8,098	3,571		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 11,669	△ 8,064	△ 3,605		
その他の収支	収入				
	長期運営資金借入金収入	5,000	5,000	0	
	積立資産取崩収入	34,220	32,931	1,289	
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000	5,000	0	
	積立資産支出	56,344	54,583	1,761	
	その他の活動による支出	15	14	1	
その他の活動支出計(8)	61,359	59,597	1,762		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 22,139	△ 21,666	△ 473		
予備費支出(10)	266	0	266		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 18,337	5,231	△ 23,568		
前期末支払資金残高(12)	82,015	122,449	△ 40,433		
当期末支払資金残高(11)+(12)	63,678	127,679	△ 64,001		

■社会福祉事業区分

I 法人運営事業拠点区分

1 法人運営事業

法人の健全経営及び地域福祉の担い手としてふさわしい事業を、効果的かつ確実に推進できるよう、組織体制の強化に努めました。

1) 組織運営

新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、理事会・評議員会及び各種委員会を開催しました。理事会、評議員会等の書面開催にあたっては、議案の概要を各理事や評議員等に個別に説明するなど、丁寧な対応をし、堅実な法人運営に努めました。

【理事会・監事監査】

会議名	日程	主な議案等	出席人数 (名)
監事監査	5月28日	・令和2年度事業報告及び決算監査 他	監事3名
第26回理事会	6月8日	・令和2年度事業報告・決算 ・次期役員及び評議員候補者の推薦 ・第18回定時評議員会の開催通知	理事7名 監事3名
第27回理事会	6月23日	・理事長専決額を超える契約 ・正副理事長・常務理事の選定	理事10名 監事3名
第28回理事会 (書面決議)	提案・議決日 8月25日	・令和3年度第1次補正予算 (市新型コロナワクチン障害者等集団接種支援業務の受託及び県社協による新型コロナウイルス特例貸付及び日常生活自立支援事業受託費の増額) ・評議員候補者の推薦 ・第19回評議員会の開催通知	全理事13名 の同意と全 監事の異議 無の回答
第29回理事会 (書面決議)	提案日 9月21日 議決日 9月22日	・情報ネットワーク整備に係るパソコンのリース契約 ・第20回評議員会の開催通知	全理事13名 の同意と全 監事の異議 無の回答
第30回理事会	3月15日	・令和3年度第2次補正予算 (市新型コロナワクチン障害者等集団接種支援業務の受託及び県社協による新型コロナウイルス特例貸付の増額。また、基幹相談支援センター	理事10名 監事2名

		<p>運営事業から地域自立支援協議会運営事業への繰出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事候補者の推薦 ・ 第3次地域福祉活動計画の策定 ・ 令和4年度事業計画・当初予算 ・ 理事長専決額を超える契約 ・ 生活福祉資金の借入 ・ 事務処理規程の一部改正 ・ 役員等賠償責任保険契約の締結 ・ 第21回評議員会の開催通知 	
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

【評議員会】

会 議 名	日 程	主 な 議 案 等	出席人数 (名)
第18回評議員会 (定時評議員会)	6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年事業報告・決算 ・ 次期役員を選任 	評議員11名 理事3名 監事1名
第19回評議員会 (書面決議)	提案日 9月9日 議決日 9月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度第1次補正予算 (市新型コロナワクチン障害者等集団接種支援業務の受託及び県社協による新型コロナ特例貸付及び日常生活自立支援事業受託費の増額) 	全評議員 21名の同意
第20回評議員会 (書面決議)	提案日 9月27日 議決日 10月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報ネットワーク整備に係るパソコンのリース契約 	全評議員 21名の同意
第21回評議員会	3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度第2次補正予算 (市新型コロナワクチン障害者等集団接種支援業務の受託及び県社協による新型コロナウイルス特例貸付の増額。また、基幹相談支援センター運営事業から地域自立支援協議会運営事業への繰出) ・ 理事の選任 ・ 令和4年度事業計画・当初予算 	評議員14名 理事3名

【各種委員会】

会議名	日程	主な議案等	出席人数
評議員選任・解任委員会	6月16日	・次期評議員の選任	5名
評議員選任・解任委員会 (書面決議)	提案・議決日 8月30日	・候補者未定により欠員していた団体からの評議員推薦に伴う選任	委員5名 全員の同意
第1回 地域・ボランティア 活動委員会	9月30日	・正副委員長の選出 ・令和3年度地域福祉係の取り組み ・第3次地域福祉活動計画策定状況	6名
第1回募金等 配分検討委員会	10月18日	・正副委員長の選出 ・令和3年度及び令和4年度共同募金及び善意銀行公募配分事業実施について ・共同募金配分事業 配分金額等の見直しについて 外	5名
第2回 地域・ボランティア 活動委員会	2月16日	・令和3年度地域福祉係の活動実績と令和4年度の取組 ・第3次地域福祉活動計画策定状況	7名
第2回募金等 配分検討委員会	2月17日	・令和3年度及び令和4年度共同募金及び善意銀行公募配分事業配分審査(19件) 外	5名
第1回企画財政 総務委員会	2月28日	・正副委員長の選出 ・第3次地域福祉活動計画策定 ・令和4年度事業計画・当初予算	5名

2) 規程の改正

〈規程の一部改正〉

- ・事務処理規程 … 組織改正に伴う所管事務の変更

(地域支援課に「地区社会福祉協議会に関すること」を追記。また、「在宅福祉係」を「地域事業係」に名称変更し、法人運営課で所管していた善意銀行や共同募金運動など地区社協、自治会及び関連団体など地域と協働して行う事務等に移管)

令和4年4月1日施行

3) 社協会員募集

住民や福祉団体等に対して、普通会費・特別賛助会費・施設団体会費への協力を依頼し、市社協及び地区社協の活動に必要な自主財源の確保に努めました。

また、会費の使いみちや市社協の取組を会員の皆様に理解してもらえるよう、地域で行われる会議において説明を行うとともに、広報紙「あかしの社会福祉」による広報活動を行いました。

【会費実績】

普通会費 (120円/世帯)	特別賛助会費 (2,000円/口)	施設団体会費 (5,000円/口)	合計
10,024,780円	981,000円	695,000円	11,700,780円

4) 人事労務・人材育成

市社協職員が中心となった組織体制の構築に向け、採用試験や研修・適切な職員配置を実施し、人事管理や人材育成に努めました。

【在職職員数】

(各年4月1日現在)

年度	正規	市派遣	嘱託	契約	出向	合計
令和3年度	79名	11名	8名	65名	3名	166名
令和4年度	81名	9名	7名	63名	1名	161名

〈参考〉【正規職員】令和4年4月1日付採用 3名

2 善意銀行

1) 市民、企業、団体等からの善意の預託（金銭及び物品）の受付及び払出

物品については、これらを必要とする団体や個人へ速やかに配布し、寄付金については、効果的に社会に還元するため、配分事業の公募を行い、募金等配分検討委員会での審査を経て、適正に払い出しました。

【預託実績】

種別	延件数	内容	寄付目的の内訳
金銭 (公募)	24件	641,950円	個人(匿名)での定額寄付、 企業・地域団体からの寄付等
物品	58件	食料品、日用品・車 いす・電子機器・ 衛生用品等	企業からの善意による寄付、閉店・ 解散による整理や引越しによる余 剰品等

【払出実績】

種 別	件 数	内 容	払 出 先
金 銭	14件	949,000円	ボランティア団体・障がい者団体
物 品	66件	日用品・車いす 等	ボランティア団体、NPO法人 社会福祉法人、保育施設 等

2) フードドライブの実施

生活困窮者への生活支援として実施しているフードドライブでは、生活協同組合コープこうべ及びピーコックストア明舞店から寄付された食料品を新型コロナウイルス特例貸付申請者や生活困窮者に対して配付しました。

また、生活協同組合コープこうべの市内6店舗で集められた各家庭の余剰食料品を配付する譲渡会を地域の福祉団体・グループを対象に2回実施しました。

※令和4年1月に株式会社光洋（ピーコックストア明舞店）と新たに協定を締結し、食料品の寄付をいただくことになりました。

【本会が直接払出を行った実績】

対 象	回 数
世帯・個人・福祉事業所 等	343回

【譲渡会の実績(生活協同組合コープこうべと協働実施)】

実施月	重 量	主な配付食材	配布先(施設・団体・グループ・世帯)
9月	1,374kg	米、調味料、レトルト食品、	41件
1月	820kg		43件
合計	2,194kg	—	84件

3 資金貸付事業

県社協及び明石市より受託した事業で、低所得者、障がい者及び高齢者に対し、貸付と必要な相談を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を構築することを目的に取り組みました。

また、新型コロナウイルス関連貸付では、県社協から受託した新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯を対象とした貸付の受付や、令和3年度に明石市の補助事業である生活資金貸付事業や学業資金貸付事業の償還事務について、借受住民・世帯に配慮しながら事務を行いました。

【県社協からの受託事業】

事業名	申請件数	貸付件数	貸付金額
生活福祉資金貸付事業 ・福祉資金・教育支援資金	19件	19件	31,408,400円
総合支援資金貸付事業	0件	0件	0円
緊急小口資金貸付事業	14件	14件	1,101,000円

【明石市からの受託事業】

事業名	申請件数	貸付件数	貸付金額
生活保護家庭生活福祉資金 貸付事業	316件	316件	4,787,000円

新型コロナウイルス関連貸付実績

【県社協からの受託事業】

事業名	相談件数	申請件数	貸付金額
緊急小口資金貸付事業 (新型コロナウイルス特例貸付)	電話 3,475件	812件	151,650,000円
総合支援資金貸付事業 (新型コロナウイルス特例貸付)	来所 1,734件	774件	1,136,750,000円

【明石市の補助事業】

事業名	貸付件数	期限到来・ 償還中	期限未到来・ 返済猶予
生活資金貸付事業	17件	1件	16件
学業資金貸付事業	122件	39件	83件

※貸付は、令和2年度に実施

4 社会福祉法人連絡協議会の運営

市内に所在する社会福祉法人や施設が、業種の垣根を越えて情報交換や課題の共有を行い、地域貢献及び地域福祉の推進を目的とする協議体として連携し、地域貢献事業に取り組みました。

【加盟】 市内28法人、47施設

【活動】 ・役員会の開催

・高齢・児童・障害施設ご利用者及び支援従事者に対する新型コロナ

- ナウウイルスワクチン優先接種について、行政に要望を行いました。
- ・市立明石商業高等学校福祉科設置の早期実現を求める請願を市議会に提出しました。

5 新型コロナウイルスワクチン障害者等集団接種支援業務

障害などにより一般の会場でのワクチン接種が不安な方などを対象に実施した集団接種について、市からの委託を受けて、接種会場での受付、案内誘導などの業務を行いました。

実施時期	案内件数
令和3年7・8月	1,168件
令和4年2・3月	511件

6 その他の取組み

- ・情報管理ネットワーク整備

令和2年度から整備を行ってきた情報管理ネットワーク環境の整備により、セキュリティ強化及びリモート会議の導入による業務改善並びに感染症等予防対策を実施することができるようになりました。

- ・ホームページリニューアル事業

市社協が取り組む事業内容について理解と協力が得られるよう、広く住民に情報発信することが必要なことから、本会ホームページにおいて、より閲覧しやすくなるようデザインの刷新、新機能の追加、ブラウザに応じた画面表示等ホームページのリニューアルに向けた検討・協議を進めました。

- ・後援名義の許可：8件
- ・安全衛生委員会開催：毎月1回開催（産業医による職場巡視等）
- ・社会福祉士実習生の受入れ

期間：8月10日～9月17日まで 計24日間 3大学3名

8月10日～8月19日及び10月6日～27日まで 計16日間 1大学1名

- ・法人会計の運用及び執行管理
- ・保護司会事務局支援：総会、理事会、研修会、観察官定期駐在 外

○社会福祉事業 法人運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考	
事業活動収支	収入	会費収入	11,653	11,701	△ 48	
		寄附金収入	1,000	642	358	
		経常経費補助金収入	99,783	99,848	△ 65	
		受託金収入	15,021	14,494	527	
		貸付事業収入	11,722	8,442	3,280	
		受取利息配当金収入	100	18	82	
		その他の収入	421	712	△ 291	
		事業活動収入計(1)	139,700	135,856	3,844	
	支出	人件費支出	109,346	101,915	7,431	
		事業費支出	2,542	2,018	524	
		事務費支出	12,279	10,621	1,658	
		貸付事業支出	5,318	4,825	493	
		助成金支出	7,396	5,345	2,051	助成件数の減
		事業活動支出計(2)	136,881	124,724	12,157	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		2,819	11,132	△ 8,313		
施設整備等収支	収入					
		施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出	7,477	5,180	2,297	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	860	860	0	
		施設整備等支出計(5)	8,337	6,040	2,297	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 8,337	△ 6,040	△ 2,297		
その他の収支	収入	長期運営資金借入金収入	5,000	5,000	0	
		積立資産取崩収入	32,000	30,811	1,189	
		事業区分間繰入金収入	0	1,501	△ 1,501	
		拠点区分間繰入金収入	0	1,353	△ 1,353	
		その他の活動収入計(7)	37,000	38,664	△ 1,664	
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	5,000	5,000	0	
		積立資産支出	35,736	35,028	708	
		拠点区分間繰入金支出	2,797	474	2,323	
		その他の活動支出計(8)	43,533	40,503	3,030	
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 6,533	△ 1,839	△ 4,694	
予備費支出(10)		200	0	200		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 12,251	3,254	△ 15,505		
前期末支払資金残高(12)		57,514	95,292	△ 37,778		
当期末支払資金残高(11)+(12)		45,263	98,546	△ 53,283		

II 地域・ボランティア活動事業拠点区分

住民参加による地域福祉活動の推進に関する事業で、ボランティア活動の支援や相談調整、ふれあい会食、災害ボランティア体制の検討などに取り組むとともに、コロナ禍での活動継続に向けた情報発信などを適宜行いました。

1 福祉コミュニティ基金事業

1) 明石市ボランティア連絡会の活動支援

明石市ボランティア連絡会の運営が円滑に進行するよう、役員などとの協議を密にし、コロナ禍での事業継続に対する支援を行いました。また、運営の財政支援として助成金を交付しました。(助成金額 1,500,000 円)

① ボランティア連絡会諸会議の支援

会議の円滑化、事業の協働推進を目的として、各種会議に出席し、適宜相談に対応できるよう努めました。新型コロナウイルス感染予防のため合同会議を2部制にするなどの工夫、情報共有の方法、事業の継続などに関する相談支援を行いました。

(主な会議)

役員会(毎月)、代表者会議(7月、9月、12月、3月)、合同会議(6月)
その他(適宜)

【ボランティアセンターグループ登録状況】

分野区分	主な活動	グループ数	ボランティア数
技 術	障がいのある方や高齢者に対して必要な技術を生かした個人個人にあった支援活動	13グループ	298名
地 域	小学校区や自治会単位のグループで地域住民の支援活動を目的に友愛訪問やサロン開催などの活動	32グループ	912名
施設・環境	福祉施設や個人宅等への訪問、技術奉仕、自然保護や環境保全、清掃奉仕等の活動	17グループ	229名
教 育	親と子が共に遊び楽しめる居場所づくりなど子育て支援や、教室の開催等学び支援	7グループ	116名
文化・健康	特技・趣味を活かしニーズに応じた文化活動、健康促進・啓発などの健康づくり活動	17グループ	271名
合 計		86グループ	1,826名

② 校区ボランティア交流会の開催支援

同じ地域に居住するボランティア同士の活動分野を越えた地域内での関わりや協力体制づくりを目的とした校区ボランティア交流会の開催を支援しました。地域ごとに、これまでのつながりが途切れてしまわないよう工夫を講じながら、コロナ禍でもできる活動を目指した協議を進め、すべての校区で開催に向けた準備を行い、14校区で開催することができました（4校区は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）。

【校区ボランティア交流会開催状況】

校 区	開 催 日	会 場	参加グループ数	参加者数
大蔵中	11月30日	人丸小コミセン	10グループ	33名
	(内容) 「歩み続けるために」をテーマに、コロナ禍で災害が発生した時にボランティアがどのようにすればよいか考える交流会を実施しました。日頃していないことは災害時にできない、ということを実社協の講話から学ぶことができました。			
衣川中	10月11日	衣川コミセン	8グループ	38名
	(内容) 「顔の見えるつながりづくり」をテーマに交流会を開催しました。交流会では、実社協ときんじょう・きぬがわ総合支援センターによる「コロナ禍でのつながりづくり」という講話をおこない、コロナ禍での取組について考える機会になりました。			
貴崎小	1月15日	貴崎みんなのひろば 「よっといで」	7グループ	28名
	(内容) 「コロナ禍でのつながりについて」をテーマに、兵庫県社会福祉協議会（以下「県社協」）より講話をいただきました。コロナ禍だからこそつながりを切らさずに、小さなことでも取り組んでいくことが大切だと認識を持つことができました。			
花園小	2月5日	西明石特・テイクファミリー	5グループ	23名
	(内容) 「大切な一人ひとりに寄り添うボランティア」をテーマに、引きこもりを題材にした「カンパニユラの夢」というDVD鑑賞会と、県社協の講話を行いました。参加者全員で、人権と福祉について考えることができた交流会となりました。			
藤江小	11月6日	藤江小コミセン	12グループ	24名
	(内容) 「コロナ禍での防災」について、県社協より講話をいただきました。講話を踏まえて、参加者同士で話し合い、災害・防災・避難などの知識を学ぶことができました。			

和坂小	11月20日	西明石町公民館	25グループ	41名
	(内容) 「ボランティア活動をしながら知識を広めよう」をテーマに、「LGBTQ+」について明石市SDGs推進室より講話をいただきました。今まで気が付かなかった性の多様性について、参加者全員が学ぶことができました。			
鳥羽小	10月13日	鳥羽小コミセン	7グループ	29名
	(内容) 「コロナ禍におけるボランティアの健康づくり」をテーマに、あかし健康ソムリエ会による健康体操「脳トレ」、手話体験などを行いました。参加者が実践することで、今後の活動に活かせる交流会となりました。			
大久保小	11月13日	大久保小コミセン	19グループ	38名
	(内容) 「コロナ禍で災害が起こったら？」をテーマに、明石市総合安全対策室より講話をいただきました。災害時は公助だけに頼らず、自助・共助が必要であるという認識を持つことができました。			
大久保中	1月15日	大久保コミセン	8グループ	33名
	(内容) 「コロナ禍でのつながり」をテーマに、フレイル予防や食事（口腔ケア）などについて、あかし保健所より講話をいただきました。今後のボランティア活動に活かすために、参加者から多くの質問が寄せられた交流会となりました。			
山手小	10月17日	山手小コミセン	21グループ	42名
	(内容) 「山手を歩いて災いに備えよう」をテーマに、まち歩き（調査）を実施しました。危険個所の発見だけではなく、参加者に地域の神社などの施設に興味を持ってもらう交流会となりました。			
江井島中	11月21日	江井島小コミセン	7グループ	25名
	(内容) 「コロナ禍の中でのつながりづくり」をテーマに、県社協より講話をいただきました。サロン活動時に気をつけなければいけない点を挙げ、工夫することで感染リスクを軽減して活動を継続することを学ぶ交流会となりました。			
魚住東中	11月13日	魚住市民センター	8グループ	23名
	(内容) 「認知症、他人事から我が事へ」をテーマに交流会を開催しました。コロナ禍で外出の機会が減少し、周囲の人との交流が少なくなることから、認知症は他人事ではないと実感できました。			

魚住中	11月6日	魚住市民センター	11グループ	26名
	「コロナ禍での活動」をテーマに、魚住ブロックのボランティアグループの活動報告を行いました。その後、県社協より講話をいただき、コロナ禍でのボランティア活動の工夫などを共有しました。			
二見中	11月13日	ふれあいプラザあかし西	14グループ	33名
	(内容) 「もっともつとつながろう」をテーマに、災害時のつながりを意識した勉強会を開催しました。明石南高校が発案した「防災すごろく」を体験することで、被災者同士が支え合う共助の行動を学ぶことができました。			
合 計			162グループ	436名

③ふれあいプラザあかし西ボランティア活動室の支援

毎月開催の事務局員会議（ボランティアによる運営会議）、連絡会議（ふれあいプラザあかし西に入居する各組織が参加）に出席し、情報提供を行いました。例年7月に開催される「わくわくサマーフェスタ」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10月に延期しハートフルしんきのみの単独開催となりました。

今年度初めて、兵庫県ボランティア・市民活動災害共済の加入手続きの臨時窓口を2日間開設しました。同時に、ボッチャ体験会や子ども服のおさがり譲渡会を地区社協などと協働で開催し、障がい者スポーツの啓発などにつながりました。

④あかしボランティアフェスタの開催

例年のあかしボランティアフェスタから形を変え、総合福祉センター運営連絡会、明石市ボランティア連絡会、明石市社会福祉協議会および総合福祉センター利用者の交流を目的とした「総合福祉センター交流フェア」を2月に実施するために取組を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大したためやむなく中止となりました。

2) ボランティアサポーター協議会の活動支援

ボランティア相談では市社協が電話で相談を受けた後に、ボランティアサポーターと協働して対応を行いました（4件）。また、定例会ではお互いの相談内容を共有するなど資質向上に関する取組を支援するとともに、相談対応力の向上を目指して、発達支援センターや基幹相談支援センターによる講義を企画し、精神障害や発達障害についての理解を深めました。

自主的な地区別勉強会では、地域活動での相談ブースの設置やボランティアグループと協働したイベントを実施するなど、ボランティア活動の啓発を行いました。

【ボランティアサポーター協議会】

(委嘱者) 29名 (勉強会開催回数) 30回 (相談対応件数) 7件

(ボランティアサポーターによる相談窓口)

- ・ コープ西明石 2階 笑くぼ 毎月第1金曜日 10回
- ・ 魚住市民センター 2階 相談室 毎月第2水曜日 10回
- ・ ふれあいプラザあかし西ボランティア活動室 毎月第2木曜日 5回

3) ボランティア養成講座の開催

ボランティアの育成を図るため、各種養成講座を開催しました。

また、身近なボランティア活動の啓発を目的とした、「ボランティア体験教室」を、地域ボランティアグループ及びふれあいプラザあかし西と協働で実施しました。

【開催講座一覧】

講座名	実施日	会場	内 容	受講者数	修了者数
寄り添いボランティア養成講座	5月26日から 6月23日	明石市立総合福祉センター	精神障がいのある方への理解を深め、精神障がい者が憩うサロンでの活動を支援するボランティアの養成講座を開催しました。(計3回)	7名	6名
おさらいの手話ボランティア養成講座	7月24日から 8月21日	明石市立総合福祉センター	過去に手話(入門・基礎)講座を学んだ方を対象に、改めて手話を学び、ボランティア活動への参加のきっかけとなることを目指して養成講座を開催しました。(計4回)	3名	3名
はじめての手話ボランティア養成講座	10月2日から 10月23日	ふれあいプラザあかし西	コミュニケーション手段の一つである手話を体験し、聴覚障がい者に対する理解を深めました。(計4回)	15名	12名
声で寄り添う音声訳ボランティア養成講座	10月7日から 11月4日	明石市立総合福祉センター	視覚障がい者への音声による情報提供と社会参加の促進をめざし、朗読技術を基礎から学び、支援活動に取り組むボランティア養成講座を開催しました。(計5回)	10名	8名
外出応援(車いす)ボランティア養成講座	10月12日から 10月26日	ふれあいプラザあかし西	体の不自由な人や高齢者が外出する際の車いす介助技術や心構えなどを学び支援活動に取り組むボランティア養成講座を開催しました。(計3回)	3名	3名

ボランティア養成講座 「体を動かして楽しく ボランティアしてみよう」	11月25日 から 12月9日	あさぎり 福祉 センター	盆踊りという身近な踊りを通じて、体を動かす楽しさや、地域や施設などで行えるボランティア活動の周知を目指した講座を開催しました。(計2回)	10名	4名
入門講座 「はじめての要約筆記」	2月25日 から 3月18日	明石市立 総合福祉 センター	聴覚障がい者(中途失聴・難聴者)に、話の内容や情報を文字で伝達する要約筆記の初歩的な技術の習得を目指した入門講座を開催しました。(計4回)	7名	6名
合 計				55名	42名

【ふれあいプラザあかし西と協働で開催】

講座名	実施日	会 場	内 容	申込者	受講者
ボランティア 体験教室	10月15日	ふれあい プラザ あかし西	地域ボランティア活動の啓発や周知を目的に、魚住・二見ブロックのボランティアに協力いただき、小グループで交流を行いました。	15名	15名

4) ボランティア活動及び小地域福祉活動の実施支援

①地区社会福祉協議会支援

地域福祉活動の中心的な役割を担う地区社会福祉協議会に対して、コロナ禍での活動に関する情報の共有や、福祉学習の計画的な実施依頼などを行い、市社協と協働で事業を進めるための基盤強化を図りました。また、地区社会福祉協議会の活動費に充てることができる「愛のあかし募金箱」の設置、車いすの貸出、パンフレットの配布などに協力いただく福祉協力店の開設を支援しました(福祉協力店:44店舗)。

②永年ボランティア表彰の実施

市内で5年以上ボランティア活動に従事されている元気高齢者への功績を称えるため、76名の方に対して「永年ボランティア表彰」を行いました。12月に予定していた表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。代替案として、各グループなどの定例会で表彰を実施しました。

③ボランティア・福祉活動助成事業

明石市内を主たる活動拠点とし、年間を通じて計画的かつ継続的に活動を行っているグループに対し、活動費の助成を行いました。また、コロナ禍での活動継続に向けた工夫をするグループが多いことから、感染症予防対策への支

出も可能とするなど柔軟な活動助成に努めました。

【助成実績】

助成金名	助成件数	助成金額
ボランティア福祉活動助成金（運営）	77 件	3,125,911 円
ボランティア福祉活動助成金（研修参加）	0 件	0 円
ボランティア福祉活動助成金（周年行事）	2 件	40,000 円
ボランティア福祉活動助成金（資機材購入）	1 件	15,944 円
つどい活動助成金	15 件	327,067 円
サロン活動助成金（福祉コミュニティ基金分）	98 件	2,784,000 円
サロン活動助成金（赤い羽根共同募金事業分）	26 件	710,000 円
合 計		7,002,922 円

④ボランティア・市民活動災害共済事業

ボランティア活動中の万が一の事故に備えるため、兵庫県ボランティア市民活動災害共済、兵庫県ボランティア活動等行事用保険などへの加入促進を図りました。また、保険加入時には事故防止の啓発と活動内容の把握に努め、ボランティアニーズの調整や新たなつながりづくりを意識した関わりを進めました。

【加入状況】

（兵庫県社会福祉協議会）

保 険 種 別		加入件数	加入者数
ボランティア市民活動災害共済	市民活動災害共済プラン	265 件	3,923 名
	天災危険補償プラン	10 件	24 名
ボランティア活動等行事用保険		34 件	—
移送サービス交通傷害保険		0 件	0 名

（全国社会福祉協議会）

保 険 種 別		加入件数	加入者数
ボランティア活動保険	基本プラン	12 件	174 名
	天災・地震補償プラン	6 件	13 名
ボランティア行事用保険		189 件	—
福祉サービス総合補償		12 件	—
送迎サービス補償		1 件	—

【事故届出状況】

保険の種別	賠償(対人)	賠償(対物)	傷 害	見舞金
件 数	0 件	0 件	10 件	0 件

5) 要援護者見守りSOSネットワーク事業

外出中に道に迷う恐れがある高齢者等の家族から登録の申し出を受け、行方不明時に福祉関係専門職や民生児童委員等の特定協力者及びその他一般協力者へメールの一斉送信を行い、早期発見の一助としました。

また、協力者登録を個人だけではなく、本事業の趣旨に賛同し地域活動への協力が可能な事業者も登録できるようにし、事業所全体での認知症に対する理解促進へとつなげることが出来ました。

【利用登録者、協力者、メール発信の状況】

利用登録者	特定協力者(※1)	一般協力者(※2)	メール発信回数
152 名	288 名	196 名	7 回

※1 特定協力者：文字情報と写真を送信する協力者

※2 一般協力者：文字情報のみを送信する協力者

2 ボランティア活動サポート事業

1) ボランティアセンターでの相談対応

ボランティア活動に関する相談だけでなく、サロン活動、ふれあい訪問活動、福祉学習、ボランティア・市民活動災害共済など幅広く相談支援を行いました。

また、ボランティアの支援を必要とする個人や団体からの相談を受け、ボランティア活動に対する調整を行いました。相談を受ける際には、相談者のニーズだけでなく、生活状況や身体状況などを聞き取り、ボランティア以外の、多機関との連携も意識して支援の輪が広がるようなつながりづくりに努めました。

【ボランティア等に関する相談件数】 527 件 (延件数)

【ボランティア新規登録件数】 (個人) 42 件 (団体) 4 件

【ボランティア依頼調整件数】

依 頼 者	件 数	依 頼 者	件 数
本人	5 件	施設	5 件
家族	0 件	地域サロン関係	4 件
ケアマネジャー	10 件	自治会関係	1 件
地域総合支援センター	0 件	行政関係	1 件
病院	0 件	その他	6 件
合 計		32 件	

2) 災害ボランティアセンター事業

①災害ボランティア事前登録制度

災害時にボランティア活動が効果的に行えるよう、災害ボランティア事前登録制度の周知と、登録の呼びかけを随時行いました。また、災害ボランティア事前登録者へのアンケートを元に、兵庫県こころのケアセンターより「災害時のメンタルケア」についての研修会を参集とオンラインのハイブリッド型で開催しました。

②災害ボランティアセンターの充実

災害時に迅速で効果的な活動展開が行えることを目的とした災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を明石市の総合防災訓練に合わせて実施しました。災害ボランティア事前登録者、明石市ボランティア連絡会、ボランティアサポーターなどの協力を得て、災害ボランティア登録からオリエンテーション、ニーズとのマッチング、送り出しなど、一連の災害ボランティアセンターの流れを体験する訓練となりました。訓練を実施したことで様々な課題が把握され、より実効性のある災害ボランティアセンター運営マニュアルの改訂に結び付けました。また、市と協定を結ぶ団体との意見交換を行い、具体的な活動に関する協議に向けた基盤整備を図りました。

3 ふれあい会食事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、持ち帰りでの対応を中心に継続する会場、会食形式へと戻す会場と様々な対応となりましたが、安否確認のための訪問、集った際の状況確認、個々への配食など、各会場で工夫を凝らした事業の継続を支援しました。(助成金額 1,619,380 円)

【実績】

中学校区	朝霧	大蔵	錦城	衣川	望海	野々池	大久保	大久保北	江井島	高丘	魚住東	魚住	二見	合計
会場数	4	2		7	2	3	1	1		3			1	24箇所
食数	517	559		245	974	815	106	289		798			190	4,493食
ボランティア数	29	12		72	63	69	5	6		31			9	296名

4 意思疎通支援者養成事業

明石市からの委託を受け、朗読及び点訳ボランティアの養成講座を開催しました。

【実績】

講座名	実施日	会場	内 容	受講者数	修了者数
朗読(音声)ボランティア養成講座 (市委託事業)	6月21日 から 10月18日	明石市立 総合福祉 センター	視覚障がい者への音声による情報提供と社会参加の促進をめざし、朗読技術を基礎から学び、支援活動に取り組むボランティア養成を行いました。 (計10回)	12名	10名
点訳ボランティア養成講座 (市委託事業)	1月27日 から 3月17日	明石市立 総合福祉 センター	視覚障がい者への点字による情報提供と社会参加の促進をめざし、点訳技術を基礎から学び、支援活動に取り組むボランティア養成を行いました。 (計8回)	10名	8名
合 計				22名	18名

○社会福祉事業 地域・ボランティア活動事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考	
事業活動収支	収入	経常経費補助金収入	18,112	15,186	2,926	
		受託金収入	4,189	2,666	1,523	
		受取利息配当金収入	2	0	2	
	事業活動収入計(1)		22,303	17,851	4,452	
	支出	人件費支出	7,022	4,763	2,259	
		事業費支出	3,095	2,288	807	
		事務費支出	2,164	1,726	438	
		助成金支出	12,609	9,412	3,197	助成件数の減
事業活動支出計(2)		24,890	18,189	6,701		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 2,587	△ 338	△ 2,249		
施設整備等収支	収入					
		施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出	固定資産取得支出	200	136	64	
	施設整備等支出計(5)		200	136	64	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 200	△ 136	△ 64		
その他の収支	収入	積立資産取崩収入	100	0	100	
		拠点区分間繰入金収入	2,797	474	2,323	
		その他の活動収入計(7)	2,897	474	2,423	
	支出	積立資産支出	859	0	859	
	その他の活動支出計(8)		859	0	859	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		2,038	474	1,564		
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 749	△ 0	△ 749		

前期末支払資金残高(12)	749	504	245	
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	504	△ 504	

Ⅲ 共同募金配分金事業等拠点区分



1 赤い羽根共同募金配分金事業

1) ふれあい訪問事業

高齢者や障がい者等が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう定期的に地域のボランティアが訪問し、対話や交流等を通じて閉じこもりや孤立化を防ぐとともに、地域住民の福祉活動に対する意識を高め、近隣での助け合いの輪を広げるための活動に対して助成を行いました。

(8地区、延訪問回数 4,210回、助成金額 684,000円)

2) 小地域福祉活動支援事業

身近な場所で、「無理なく」「気軽に」集う自主的な居場所活動に対して、活動費の助成を行いました。また、コロナ禍での活動継続に向けた工夫をするグループが多いことから、感染症予防対策への支出も可能とするなど柔軟な活動助成に努めました。

【サロン活動助成金（再掲）】

助成金名	助成件数	助成金額
サロン活動助成金（福祉コミュニティ基金分）	98件	2,784,000円
サロン活動助成金（赤い羽根共同募金事業分）	26件	710,000円
合 計		3,494,000円

3) 福祉学習推進事業

点字・手話・車いす・ガイドヘルプなどの体験学習を、感染防止対策をとりながらボランティアの協力を得て実施するとともに、障がい当事者団体に協力いただき障がい当事者との交流を推進しました。また、地区社会福祉協議会が主催する福祉体験学習について費用の助成を行いました。(助成件数 6件、助成金額 115,000円)

【実施状況】

区分	主催者	実施数	対象人数	内 容					
				点字	手話	車いす	ガイドヘルプ	その他	当事者との交流
学校行事	小学校	21校	3,174名	11件	7件	13件	6件	1件	6件
	中学校	1校	30名	—	—	1件	1件	—	—
	高等学校	2校	135名	2件	—	—	1件	1件	1件
地域行事	地区社会福祉協議会等	地区社協 5地区6件 その他2件	305名	0件	5件	3件	—	1件	—

4) 認知症当事者等集いの場運営助成事業

認知症の方々の「集いの場」を運営する介護ボランティアたんぼぼの運営助成及び相談支援を行いました。(助成金額 200,000円)

5) 車いす貸出事業

介助が必要な方の外出、病気やけがなどで一時的に車いすが必要な方等の生活を支援するために、総合福祉センターや地域の貸出拠点で車いすの貸出を行いました。

【貸出実績】

	貸出場所数	設置台数	貸出件数
総合福祉センター	1 箇所	39 台	173 件
各 地 域	161 箇所	225 台	1,127 件

6) 福祉機器リサイクル事業

家庭で不用となった電動ベッドや車いすなどの福祉機器のうち再利用が可能なものを譲り受け、ボランティアの協力により点検整備した後に、必要とされる方に無償で譲り渡しました。また、3月には展示会を開催し、広く活用されるよう情報提供を行いました。

【福祉機器譲り受け・譲り渡し】

譲り受け数(新規)	譲り渡し数
88 台(内 58 台新規)	58 台

【ボランティア点検整備活動】

活動回数	活動延人数
18 回	76 名

7) 情報発信推進事業

【広報啓発活動実績】

○ボランティアセンターの広報

ボランティアセンターだより、ボランティアホームページ(毎月1回以上更新、必要に応じて随時更新)を通じて、助成金などの申請書類をダウンロードできるように整備したほか、各種の助成金情報やコロナ禍での活動における注意点などを掲載し、ボランティア活動の側面支援ができるような情報発信に努めました。

○『あかしの社会福祉』年4回発行(各号13,000部)

(4月24日、7月20日、10月25日、1月25日)

○社協ホームページ更新

8) 各種団体配分事業

地区社会福祉協議会、市内の地域福祉に関わる団体(高齢者、障がい児・者、

児童・青少年等の各分野)に対して、活動支援を行いました。障がい児・者団体への配分について、新たに団体を追加しました。

(22地区社会福祉協議会 3,607,819円、22地域福祉団体 2,365,000円)

9) こども版公募配分事業

市内の小学校・中学校・養護学校・高等学校に通う子どもたち自身が共同募金の使いみちを考え、学校や放課後児童クラブを通して公募申請を行うことができる取り組みで、学校生活を豊かにするための活動や備品の購入、地域の方々を行う行事などに対し費用の一部を助成しました。

共同募金が身近な場所で活用されていることを知ってもらうとともに、児童・生徒の福祉に対する意識を醸成する機会としています。

(3校 : 117,957円)

10) 公募配分事業

共同募金による支援が広く公平に行き渡るよう、市内を活動拠点とする地域福祉団体、市内全自治会・町内会に対して案内を行い、募金等配分検討委員会において助成額を審議決定し、地域の福祉活動に対する支援を行いました。

(8団体 : 823,000円)

2 歳末たすけあい配分金事業

1) 施設・団体等交流支援事業

歳末期に実施される地域や施設での交流事業や、地域での見守りが必要な世帯への訪問事業などに対して、配分金額を増額して支援を行いました。

(99団体 : 2,403,266円)

○社会福祉事業 共同募金配分金事業等拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
事業活動収支	収入				
	経常経費補助金収入	16,051	13,310	2,741	
	事業活動収入計(1)	16,051	13,310	2,741	
	支出				
事業費支出	924	247	677		
事務費支出	5,247	2,037	3,210		
助成金支出	13,701	11,026	2,675		
事業活動支出計(2)	19,872	13,310	6,562		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 3,821	0	△ 3,821	
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0	
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	その他の活動支出計(8)	0	0	0	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	0	0	
予備費支出(10)		66	0	66	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 3,887	0	△ 3,887	
前期末支払資金残高(12)		17,752	15,976	1,776	
当期末支払資金残高(11)+(12)		13,865	15,976	△ 2,111	

IV 介護保険事業等拠点区分

1 居宅介護支援事業

要介護の状態にある高齢者や障がい者の居宅生活を支援するため、介護支援専門員（相談支援専門員）による、居宅介護支援（ケアプラン作成）事業、特定相談支援（障害福祉サービスなど利用計画作成）事業を行いました。また、関連事業として、地域総合支援センターから委託を受け、要支援状態にある高齢者の介護予防ケアプランを作成しました。

【居宅介護支援事業（介護度別利用者延人数）】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
314 名	408 名	232 名	198 名	91 名	1,243 名

【特定相談支援事業（支援別利用者延人数）】

利用支援 ※1	継続支援 ※2	合計
50 名	68 名	118 名

※1 利用支援…初回の相談を受けて、障害者福祉サービスの利用計画を作成すること

※2 継続支援…前計画をチェックして、見直し計画を作成すること

【介護予防ケアプラン作成】

作成件数 787 件

○社会福祉事業 介護保険事業等拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入	介護保険事業収入	25,301	25,874	△ 573	
		障害福祉サービス等事業収入	1,760	1,677	83	
		受取利息配当金収入	1	2	△ 1	
		その他の収入	1	3	△ 2	
		事業活動収入計(1)	27,063	27,556	△ 493	
	支出	人件費支出	23,710	21,588	2,122	
		事業費支出	618	425	193	
		事務費支出	4,184	3,565	619	
		事業活動支出計(2)	28,512	25,578	2,934	
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 1,449	1,978	△ 3,427	
施設整備等収支	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
		施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	支出	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
		その他の活動収入計(7)	0	0	0	
その他の収支	収入	積立資産支出	1	1	0	
		その他の活動支出計(8)	1	1	0	
	支出	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 1	△ 1	0	
		予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 1,450	1,977	△ 3,427		
前期末支払資金残高(12)		6,000	10,676	△ 4,676		
当期末支払資金残高(11)+(12)		4,550	12,653	△ 8,103		

V 基幹相談支援センター拠点区分

1 基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター運営事業

障がい福祉分野における相談支援の中核的な役割を担う機関として、総合相談・専門相談、権利擁護・虐待防止、地域の相談支援体制の強化などに取り組みました。

令和3年度より、オンラインでの業務遂行体制が整いました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、業務が遅滞することの無いよう、相談業務の一部を除き、オンラインを積極的に活用しました。

1) 総合相談・専門相談

相談件数は年々増加傾向にあり、はじめて10,000件を超えました。障害福祉サービスだけでは解決が困難な複合多問題事案、権利侵害（虐待を含む）事案等を含めた多岐に渡る相談が寄せられました。

【相談支援を利用した障がい者等の人数】

身体	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
59人	167人	235人	45人	5人	3人	1人	515人

【相談件数】

身体	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
1,253件	3,493件	4,537件	736件	108件	36件	3件	10,166件

2) 権利擁護・虐待防止

【障がい者虐待に関する相談・通報等の件数】

		通報義務に該当しない相談等					合計
養護者	施設従事者等	使用者	保育所等	学校	医療機関等	官公署	
15件	9件	2件	0件	0件	0件	0件	26件

【虐待の種別・類型（重複あり）】

	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	放棄・放置	経済的虐待	合計
養護者	8件	1件	3件	1件	4件	17件
施設従事者等	0件	3件	5件	0件	2件	10件
使用者	0件	0件	2件	0件	1件	3件

【被虐待者（疑い）の障がい種別（重複あり）】

	身体	知的	精神	発達	難病等	その他	合計
養護者	3件	4件	8件	1件	0件	0件	16件
施設従事者等	2件	5件	2件	0件	0件	1件	10件
使用者	1件	0件	1件	0件	0件	0件	2件

【明石市権利擁護・障害者虐待防止研修】

障害者福祉施設従事者等による虐待防止対策の一助として、集合型の研修をオンラインで実施して 119 名が受講しました。また、障害福祉サービス事業所をはじめとする関係各所からの虐待防止を目的とした出講依頼にも可能な限り対応しました。

3) 地域の相談支援体制の強化の取組

相談支援専門員に対する実践現場における専門的な助言や指導（相談支援専門員が直面している困難な事柄を自ら解決できるような支援）、人材育成の支援（障がい特性の理解や相談援助技術の習得を目的とした研修会や事例検討会を毎月開催）、相談機関との連携強化（相談支援専門員間のネットワーク構築を目的とした相談支援連絡会を毎月開催）に取り組みました。

2 地域自立支援協議会運営事業

専門部会（くらし・しごと・こども）及び相談支援連絡会を設置して、障害福祉サービスの提供等の実務を通じて把握した、①支援体制に関する課題、②既存の制度やサービスだけでは解決が困難な事象、③繰り返し起こっている類似の問題等をテーマ別に整理・集約し、協議・検討しました。

【運営会議】

開催日	報告事項	協議・検討事項
6月18日	コロナ禍で顕在化した課題について	住まいの確保に関する問題について
9月2日	精神障害のある人への居住支援の実態について	情報保障と情報支援のあり方について
12月16日	グループホーム実態調査の結果について	障害福祉サービスの事業内容に関する情報発信のあり方について
3月11日	就労継続支援 B 型利用者の就労に関する意向調査の結果について	就労継続支援 B 型利用者の就労へのステップアップに向けたサポートのあり方について

○社会福祉事業 基幹相談支援センター拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考
事業活動収支	収入				
	受託金収入	56,765	54,897	1,868	
	事業活動収入計(1)	56,765	54,897	1,868	
	支出				
人件費支出	47,594	47,584	10		
事業費支出	4,420	3,264	1,156		
事務費支出	1,832	1,232	600		
事業活動支出計(2)	53,846	52,080	1,766		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		2,919	2,817	102	
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	固定資産取得支出	160	160	1	
	固定資産除却・廃棄支出	1	0		
施設整備等支出計(5)	161	160	1		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 161	△ 160	△ 1	
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	積立資産支出	2,758	2,658	100	
その他の活動支出計(8)	2,758	2,658	100		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 2,758	△ 2,658	△ 100	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	1	
前期末支払資金残高(12)		0	0	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0	

IV後見支援センター拠点区分

1 後見支援センター運営事業

認知症や知的、精神の障がい等により判断能力が十分でない人や、支援や援護を必要とする人が住み慣れた地域で安全に安心して生活を続けられるよう、本人主体の観点から後見制度の利用支援や権利擁護支援を行い、総合的かつ積極的な権利擁護の推進を図りました。

事業としては、中核機関としての体制整備と機能強化を重点として後見・権利擁護の専門相談・専門支援、後見制度の広報・啓発、法人後見の受任、市民後見人等の養成や活動支援、後見基金の運用と後見基金事業の実施、関係機関との連携強化による支援体制やネットワーク作り、センターの運営・事業調整・受任調整委員会の運営、専門職バンクの登録及び後見人の申立・候補者の調整支援等を行いました。

①後見支援センター相談支援実績

分 野	合 計
相談支援延べ件数	7,715 件
相談支援実数	2,437 件

②法律専門相談における実績（法律職による来所相談）

	合 計
開催回数	46 回
相談件数	86 人

③後見制度の広報・啓発実績（地域の講座等への講師派遣・視察受入）

	合 計
実施回数	3 回

※コロナ禍のため制限して実施

④専門職バンクの登録状況（令和4年3月31日現在）

弁護士	16人
司法書士	43人
社会福祉士	43人
社会保険労務士	10人
合 計	112人

⑤専門職バンクへの相談依頼件数 (合計：158件)

(職種／内容)	後見申立	後見受任	その他	合計
弁護士	6件	7件	1件	14件
司法書士	71件	56件	1件	128件
社会福祉士	-	16件	-	16件
社会保険労務士	-	-	-	0件
合計	77件	79件	2件	158件

⑥法人後見・監督の受任

平成28年度から市民後見人養成講座修了者の現場体験の受け皿等を目的として、法人後見の受任に取り組みました。これまで延べ13名の法人後見（6人）及び監督人（7人）に就任し、後見業務及び監督業務を行いました（平成30年3月に市民後見人第一号が誕生）。（令和4年3月31日時点）

	実数	延数				
			後見	保佐	補助	任意
法人後見	1人	6人	3人	3人	0人	0人
法人後見監督 (市民後見人)	6人	7人	2人	5人	0人	0人

<①法人後見の受任歴一覧>

	年齢	種類	居所	類型	就任日	終了日	備考
1	78歳	高齢	病院	保佐	平成28年6月	平成29年10月	死亡
2	57歳	知的	施設	後見	平成28年6月	平成30年3月	市民後見人へ移行 →② - 1後見監督人
3	77歳	精神	病院	保佐	平成28年6月	令和2年6月	市民後見人へ移行 →② - 3後見監督人
4	85歳	高齢	施設	保佐	平成29年12月	平成30年12月	市民後見人へ移行 →② - 2保佐監督人
5	66歳	高齢	施設	後見	平成29年12月		
6	89歳	高齢	施設	後見	平成29年12月	平成30年1月	死亡

<②法人後見監督（市民後見人）の受任一覧>

	年齢	種類	居所	類型	就任日	終了日	備考
1	57歳	知的	施設	後見	平成30年3月		
2	85歳	高齢	施設	保佐	平成30年12月	令和元年3月	死亡
3	77歳	高齢	病院	保佐	令和2年6月		
4	73歳	高齢	在宅	保佐	令和2年7月		
5	84歳	高齢	施設	保佐	令和2年7月		
6	82歳	高齢	施設	後見	令和2年12月		
7	48歳	精神	在宅	保佐	令和3年1月		専門職との複数後見

⑦市民後見人等の養成や活動の支援

センターでは、将来、「市民後見人」をはじめ、地域福祉や権利擁護に携わる幅広い支援の担い手として活動する人材の発掘・養成支援を目的とする「市民後見人（市民サポーター）養成講座」を平成27年度から定期的に開催し、市民サポーター（養成講座修了者等）の活動支援、市民後見人の監督等の市民後見人の養成に取り組んできた。これまでに計3回、「市民後見人（市民サポーター）養成研修」を開催し、①養成研修修了者（60名）②市民サポーターバンク登録者（32名）、③市民後見人候補者（11名）、④市民後見人（7名）を輩出しました。

市民後見人のフォローアップとして、市民後見人及び候補者等の勉強会を開催し事例検討や意思決定支援など市民後見人及び候補者同士の情報交換や後見業務等に関する支援のスキルアップを図りました。

(明石市) 市民後見人(市民サポーター)養成講座修了者の活動状況

(単位:人)

令和4年3月31日現在

(1)市民後見人(市民サポーター)養成講座 ※年代は当時

平成27年度【第1回】

●6日間(36時間)
●受講者:25人(全員修了)

30代~	1	男	7
40代~	2	女	18
50代~	5		
60代~	17	合計	25
市民サポーターバンク登録者		17人	

平成29年度【第2回】

●6日間(41時間)+実習(1日)
●受講者:27人(全員修了)

30代~	0	男	8
40代~	4	女	19
50代~	9		
60代~	14	合計	27
市民サポーターバンク登録者		20人	

令和2年度【第3回】

●4日間(28時間)+実習(2日)
●受講者:27人(全員修了)

30代~	1	男	0
40代~		女	8
50代~	1		
60代~	6	合計	8
市民サポーターバンク登録者		8人	

※「市民サポーターバンク登録者」は、各養成講座の修了者のうち市民サポーターバンクに登録した人数…(3)－Ⅱの合計とは異なる

(2)市民サポーターフォローUP 研修

平成28年度【第1回】 16名
平成29年度【第2回】 28名
令和2年度【第3回】 18名



(3)市民サポーター(市民後見人養成講座修了者)の活動状況

Ⅰ 養成講座修了者

●修了者:60人(1~3期生)

男	15	30代~	2
女	45	40代~	6
		50代~	15
合計	60	60代~	36
		70代~	1

Ⅱ 市民サポーターバンク登録

●登録者:32人

男	5	30代~	1
女	27	40代~	0
		50代~	7
合計	32	60代~	17
		70代~	7

Ⅲ 市民サポーター活動状況

●活動実績者数(延数):36人

1.生活支援員(日自事業)	21
2.児童家庭支援員(児童扶養)	8
3.法人後見支援員	4
4.後見サポーター	3
延べ活動者数	36

Ⅳ 市民後見人候補者名簿登録

●登録者:10人

男	1	30代~	0
女	9	40代~	0
		50代~	1
合計	10	60代~	6
		70代~	3

(4)名簿登録者の生活圏区域別状況【6地区】 ※生活圏は地域総合センターの担当エリア

あさぎり・おおくら	きんじょう・きぬがわ	にしあかし	おおくぼ	うおずみ	ふたみ	合計
4	4	4	12	6	2	32

Ⅵ 市民後見人

実数	6	延数	7
----	---	----	---

※実数は現時点の人数
※平成30年3月 第1号誕生

2 日常生活自立支援事業（県社協受託事業）

判断能力に不安のある高齢者や知的・精神障がい者が地域で安心して生活できるように、福祉サービス利用についての援助や日常の金銭管理援助を行いました。また、利用者のなかで成年後見制度への移行にかかる申立等の支援を実施しました。

【令和3年度 日常生活自立支援事業の実績】

利用者数(年度末)	新規契約者数	解約者数
83名	16名	16名

- ・解約者のうち、成年後見制度へ移行支援した者：11人（約70%）
- ・利用者数のうち、生活保護受給者：53名（約65%）
- ・利用契約者に伴う生活支援員の訪問支援実績

訪問延回数	訪問延時間
1,917回	1,578時間

3 後見基金事業（自主事業）

後見制度の普及啓発、市民後見人の養成支援及び制度の狭間支援等の後見制度の利用促進を図るために、明石市社会福祉協議会に創設した後見基金を活用し、後見支援を適切かつ円滑に行うことができるように支援を行いました。

令和3年度は、親族がさらに後見制度を利用し易くするために、後見基金の財源を活用した先進的な取組みとして、「親族の申立費用の助成支援（一律12万円を助成）」を実施し、3件の利用実績がありました。後見基金の実績は記載の通りです。

【令和3年度 後見基金の実績】

基金への寄附額（9件）	430,054円
基金からの支給および貸付額（25件）	921,970円
基金の累積積立額（令和4年3月31日現在）	10,867,665円

4 明石市更生支援コーディネート事業

障がい者や高齢認知症者のうち、地域で自立した生活ができずに軽微な犯罪を繰り返す触法障害者等が、地域で自立した生活ができ、犯罪を繰り返さないよう、地域の関係機関等と連携して支援を行いました。

【令和3年度 相談支援件数（実人数・延支援数）】

事件種別		実数	支援数(延)
支援内容	入口支援	128 人	446 件
	出口支援	98 人	629 件
	その他	30 人	176 件
合計		256 人	1251 件

※入口支援…刑務所には入所せず社会内で更生を図る対象者の支援

※出口支援…刑務所入所からの相談支援及び出所後の社会復帰支援

○社会福祉事業 後見支援センター拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入	寄附金収入	300	430	△ 130	
		受託金収入	58,653	58,019	634	
		事業収入	2,200	520	1,680	
		その他の収入	500	0	500	
		事業活動収入計(1)	61,653	58,969	2,684	
	支出	人件費支出	48,832	47,413	1,419	
		事業費支出	6,939	5,966	973	
		事務費支出	4,632	4,433	199	
		事業活動支出計(2)	60,402	57,811	2,591	
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	1,251	1,157	94	
施設整備等収支	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
		施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0	
	その他の収支	収入	積立資産取崩収入	2,120	2,120	0
その他の活動収入計(7)			2,120	2,120	0	
支出		積立資産支出	3,371	3,277	94	
		その他の活動支出計(8)	3,371	3,277	94	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 1,251	△ 1,157	△ 94		
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)		0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0		

VII 地域活動支援センター事業拠点区分

障がい者が住み慣れた地域において、孤立することなく他者との交流を深め、自立した日常生活や社会生活の支援を目的に、創作活動や日常生活訓練の機会を提供する各種事業を開催しました。

※各種事業の開催においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館前の検温・マスクの着用・距離を保つことを基本として、事業毎に対策を講じました。

1) 創作・技能・適応訓練教室

点字、料理、編物、生花、陶芸、写真、書道、手話、囲碁・オセロ、パッチワーク、体操、童謡・唱歌、パソコン、プリザーブドフラワー、絵手紙、スポーツ、折り紙細工、短歌、刺しゅうの19教室を開催しました。

※教室毎に同時参加人数の制限を行いました。

実施回数	270回
実参加者数	122名
延参加者数	2,361名

2) プール教室（機能訓練） ※中止

肢体不自由者を対象に、水中での機能訓練とレクリエーションを目的に開催する「プール教室」は、水中ではマスクが着用出来ず複数人による密着状態での介助が必要なことから、中止しました。

3) 障がい者スポーツ交流事業

①障がい児とその家族を対象にスイミングコーチが水慣れからクロール、平泳ぎの水泳指導を行う「夏休みこども水泳教室」を開催しました。

開催日	7月31日
参加者数	5名

②障がい者及び高齢者を対象に、心身機能の維持や増進を図ることを目的にスイミングコーチが泳ぎ方の指導を行う「にこにこスイミング教室」を毎月第3・4木曜日に開催しました。

※同時利用人数の制限（5名または7名）を行いました。

実施回数	34回
参加者数	158名

4) 令和3年度 団体対抗!!ラダーゲッター記録大会（障がい者交流運動会代替事業）

参加団体が各々の事業所等で記録会を行い合計点数を競い合う記録大会を実施しました。

参加団体の上位4チームで行う準決勝・決勝戦は総合福祉センターで開催し、大会の様子をネット配信でも観戦できるようにしました。

（「ラダーゲッター」はハシゴ状の枠（ラダー）にボールを投げて得点を競い合うニュースポーツです。）

開催期間	予選 令和3年10月21日から令和3年11月20日まで 準決勝・決勝戦 令和3年12月15日
参加団体数	15団体
参加者数	選手（障がい者）213名 スタッフ等66名

○社会福祉事業 地域活動支援センター事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入				
	障害福祉サービス等事業収入	23,296	23,296	0	
	事業活動収入計(1)	23,296	23,296	0	
	支出				
人件費支出	10,810	10,677	133		
事業費支出	11,975	10,896	1,079		
事務費支出	511	371	140		
事業活動支出計(2)	23,296	21,943	1,353		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	0	1,353	△ 1,353		
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0		
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	拠点区分間繰入金支出	0	1,353	△ 1,353	
	その他の活動支出計(8)	0	1,353	△ 1,353	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	△ 1,353	1,353		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	0	0		
前期末支払資金残高(12)	0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	0	0		

■公益事業区分

I 総合福祉センター管理運営事業拠点区分

市民の福祉向上と地域福祉活動の推進に寄与するため、自主運営事業を実施するとともに、貸館業務については、施設設備の維持管理に努め、利用者の利便性向上を図りました。

1) 水中ウォーキング教室、水中リズム運動及び入水相談

プールを利用する障がい者及び高齢者を対象に予約制で実施しました。

①水中ウォーキング教室

心身機能の維持や転倒予防を目的に、プールでの適切な運動方法の相談・指導を毎月第2木曜日に開催しました。

※同時利用人数の制限（10名または15名）を行いました。

実施回数	9回
参加者数	99名

②水中リズム運動

心身機能の維持や回復を目的に、水中での簡単なリズム運動の指導を奇数月の第1木曜日に開催しました。

※同時利用人数の制限（10名または15名）を行いました。

実施回数	4回
参加者数	47名

③入水相談

プールを効果的かつ安全に利用いただくことを目的に、看護師等が身体状況等を聞き取り、入水相談を実施しました。

相談者数	45名
------	-----

2) 太極拳教室

障がい者及び高齢者を対象に、健康維持、向上及び増進を目的に太極拳教室を実施しました。

実施回数	9回
参加者数	184名

3) 障がい者事業所支援事業

障がい者の自立支援を目的に、ロビーにて障がい者作業所等で授産するパンやクッキー、小物・雑貨等の販売コーナーを設置しました。

販売回数	209回
------	------

4) 健康相談等事業

- ①利用者を対象に、健康不安の解消を目的に受付窓口や温水プールにおいて看護師が健康相談を行いました。

相談者数	294名
------	------

- ②障がい者及び高齢者を対象に、健康に対する意識を高めることを目的に健康教室（健康体操、健康相談）として「にこにこ粋・生き健康教室」を開催しました。

実施回数	2回
参加者数	26名

5) 交流事業

- 障がい者（児）とその家族及び高齢者を対象に、利用者同士の交流を目的に「フラダンス教室」及び「七宝焼き教室」を開催しました。

参加者数	19名
------	-----

6) 施設利用状況

- プールの運営及び、会議室・多目的体育室・料理室等の貸館業務を行いました。

- ※緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出期間中は全館閉館または夜間利用中止等の対応を行いました。

- ※プールは各利用時間の定員数制限（10名または15名）、貸室利用は各部屋定員数の半数までに制限し、貸出しました。

利用回数	4,791回
利用者数	45,986名

○公益事業 総合福祉センター管理運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考
事業活動収支	収入				
	受託金収入	78,152	78,152	0	
	事業収入	35	0	35	
	その他の収入	135	130	5	
	事業活動収入計(1)	78,322	78,282	40	
	支出				
	人件費支出	27,331	26,783	548	
	事業費支出	50,413	49,487	926	
	事務費支出	578	546	32	
事業活動支出計(2)	78,322	76,817	1,505		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	0	1,465	△ 1,465		
施設整備等収支	収入				
	施設整備等収入計(4)	0	0	0	
	支出				
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
その他の収支	収入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支出				
	事業区分間繰入金支出	0	1,465	△ 1,465	
	その他の活動支出計(8)	0	1,465	△ 1,465	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	△ 1,465	1,465		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	0	0		
前期末支払資金残高(12)	0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	0	0		

II 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分

共生の社会づくりの推進に寄与するため、誰もが参加しやすいようバリアフリーに配慮した事業を実施するとともに、貸館業務については、適切な施設設備の維持管理を行い、ギャラリーの開設や玄関前掲示板を設置する等、利用者の拡充と利便性の向上に努めました。

※各種事業の開催においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館前の検温・マスクの着用・距離を保つことを基本として、適宜用具の消毒、人数制限事業毎に対策を講じました。

1) 地域共生社会推進事業

スポーツ等を通じた共生社会の理解促進を目的に1階多目的ホール、屋外多目的広場、ギャラリーを活用し、広く一般利用していただく他、誰もが参加できるスポーツの体験、教室を実施しました。

①スポーツ体験

随時

(車いす卓球、車いすバスケ、卓球、卓球バレー、ボッチャ、フライングディスク、風船バレーサウンドテーブルテニス、ブラインドサッカー、ストラックアウト、ラダーゲッター、モルック)

利用者数	3,588名
------	--------

②スポーツ教室

毎月第1～第4木曜日開催

教室名	参加者数
ボッチャ教室	180名
卓球バレー教室	129名
スポーツインストラクターの 気まぐれ教室	237名

毎月第1、第3金曜日開催

教室名	参加者数
ストレッチ& ACEボール教室	120名

毎月第3土曜日

教室名	参加者数
ウォーキング教室	49名

③レクリエーション

随時

利用者数	206名
------	------

④アート展示

2階廊下及び交流スペースを活用し、障がい者等の作品を展示するギャラリー

一を運営しました。

展示回数 (概ね1か月ごと)	9回
-------------------	----

2) 障がい者就労支援カフェの運営

障がい者の社会参画による共生社会の理解促進を目的に2階交流スペースにて軽食喫茶「なかま」を運営し、総合福祉センター本館を利用する方や近隣住民などへの食事スペースの提供や、月2回の「みんな食堂」を開催しました。

・なかま食堂

※一部をカウンター席にするなどレイアウトを変更し、パーテーションの設置を行いました。

営業日数	242日
利用者数	5,601名

・みんな食堂

※定員数を15名とし、実施しました。

実施回数	10回
参加者数	126名

○公益事業 総合福祉センター新館管理運営事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A) - (B)	備 考	
事業活動収支	収入					
	受託金収入	25,500	25,500	0		
	事業活動収入計(1)	25,500	25,500	0		
支出	人件費支出	3,695	3,670	25		
	事業費支出	21,758	21,753	5		
	事務費支出	47	41	6		
	事業活動支出計(2)	25,500	25,464	36		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		0	36	△ 36		
施設整備等収支	収入					
	施設整備等収入計(4)	0	0	0		
	支出					
	施設整備等支出計(5)	0	0	0		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0	0	0		
その他の収支	収入					
	その他の活動収入計(7)	0	0	0		
	支出	事業区分間繰入金支出	0	36	△ 36	
		その他の活動支出計(8)	0	36	△ 36	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		0	△ 36	36	
予備費支出(10)		0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)		0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0		

III 地域総合支援センター事業拠点区分

地域共生社会の実現に向け、市内6か所の地域総合支援センターに、保健師や看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士、生活支援コーディネーターを配置し、高齢者だけでなく、障がい者、子どもを含む様々な支援を必要とする人とその家族に対して、総合的・包括的な相談対応を行いました。また、総合相談支援員を配置して、多機関の協働による包括的支援体制の整備もあわせて行いました。

1 総合相談支援事業

地域住民が住み慣れた地域で生活し続けることができるように様々な相談に対応しました。

実相談件数	延相談件数
14,435 件	41,305 件

また、生活支援ダイヤルでは、日々の生活の中で感じている様々な不安や困りごとを抱える市民からの相談を受付ました。

延相談件数	相談者内訳			
	高齢者	高齢障がい者	障がい者	その他
693 件	232 件	11 件	91 件	359 件

2 権利擁護事業

判断能力の低下した高齢者や重層的な問題のある高齢者の相談に対応しました。

成年後見制度活用	高齢者虐待対応	金銭問題・消費者被害等
2,540 件	3,773 件	2,365 件

3 包括的・継続的ケアマネジメント事業

介護支援専門員の資質向上、ネットワーク構築に向け、担当圏域の居宅介護支援事業所と事例検討会等を以下のとおり開催（共催含）しました。

取組の種類	手段	回数
情報交換会（交流会）	オンライン型	7 回
	参集型	10 回
事例検討会	参集型	7 回
事例検討会の振り返りの会	参集型	4 回
学習会	訪問型	14 事業所
	参集型	2 回

また、地域の介護支援専門員からの個別相談の助言等の実施や、相談しやすい関係づくり等を目的に居宅介護支援事業所等に巡回訪問しました。

4 地域連携推進業務

1) 生活支援専門部会

専門部会を開催し、昨年度までの取組からの課題3点をテーマとして話し合い、次年度は3点のうちテーマを絞って課題解決に向けて取り組むことに決まりました。

テーマ

- ①高齢者の活躍できる場を作るには
- ②民間企業との連携を広げていくには
- ③フレイル予防の取組への参加を促す仕組みを作るには

2) 在宅医療・介護連携専門部会

専門部会を開催し、医療と介護の連携する上で、身寄りのない方の支援の際に必要な情報や「人生会議（人生の最期に受けたい医療や介護についての意向の確認を行う取組）」等をまとめ、市民自身がもしもの時の備えができるよう情報一覧を作成することが決まりました。

区 分	概 要	開催回数（書面開催含）
専門部会	合意形成・意思決定	3回
ワーキング	課題解決に向け計画に沿った取り組みの実践	3回
運営会議	ワーキング等取り組みの運営や方向性等の検討	2回

5 生活支援体制整備事業

コロナ禍でも感染に配慮した地域活動につなげていただけるよう、昨年度作成した『☆実感！明石の支え愛～with コロナ禍の活動事例集～』を地域・関係団体へ配布し、コロナ禍において根強く活動されている地域の活動を紹介しました。また、他市との実践の共有等から、個別事例からも地域課題を見出しやすい環境にあること等を学びました。

1) 第1層生活支援コーディネーターの取組（市域エリア）

第2層生活支援コーディネーターへの情報提供、第2層生活支援コーディネーターの活動状況の報告等を通じて課題抽出・情報共有を行い、第2層生活支援コーディネーターが、より地域支援者の活動に伴走した支援に取り組むことができました。

2) 第2層生活支援コーディネーターの取組

地域住民の「地域総合支援センターが遠くて、相談しにくい」という声と、

相談件数の現状から、相談が比較的少ない地域に、将来的に通いの場になるよう想定して住民に働きかけ、体力等の測定や出張相談会の立ち上げにつなげました。また、高齢者等が地域で自立した生活を継続できるよう、地域の集いの場等のインフォーマルな資源を介護支援専門員に情報提供する等、介護予防と地域づくりに向け取り組みました。

3) 就労的活動支援の取組

高齢者の生きがいつくり・就労的活動、有償・無償の福祉的活動に参画する人材育成のため、市内の社会福祉法人と協力し生活援助訪問型サービス従事者養成研修を実施しました。受講後の活動に結びつくよう、生活援助訪問型サービス提供事業所スタッフ募集のチラシ等の情報を提供しました。

日時	会場	受講者数	終了者数
令和3年10月5日・7日・12日・19日	明石市立市民会館	9名	9名

また、就労的活動、有償・無償の福祉的活動に対するアンケートを156施設・団体に実施し、37施設・団体から回答を得ました（回収率23.7%）。アンケートの結果、回答のあった施設としては就労的活動の場としての受け入れに意欲的であるということがわかり、次年度活動へつながりました。

6 認知症総合支援事業

認知症相談窓口において早期の相談の重要性について周知するとともに、本人や家族等からの相談対応、社会資源や支援機関の情報提供等を窓口又は訪問による面談及び電話対応で行いました。

また、認知症の正しい理解の啓発のため、オレンジサポーター養成の実施や若年性認知症の家族会のサポート、男性介護者のつどいの場を開催し、男性介護者の孤立を防ぐよう取り組みました。

【相談件数】

初回相談	継続相談	総件数	初期集中支援導入
730件	5,995件	6,725件	35件

【相談方法の内訳】

電話相談	来所相談	訪問相談	その他
4,634件	533件	1,018件	540件

【オレンジサポーター養成講座実施件数】

開催数	養成人数
60回	1,664人

7 在宅医療・介護連携推進業務

地域の在宅医療と介護連携を支援するため、地域総合支援センター本部に相談窓口を設置し、医療や介護の専門職からの相談対応を行いました。

内 訳					相談総数
日常の療養生活の支援	急変時の対応	看取り支援	入退院支援	その他	
8件	0件	0件	6件	4件	18件

8 「いきいき！元気アップ教室」実施業務

市民が誰でも参加でき、介護予防に関する講座や楽しく運動ができる教室を、感染対策を講じて、10会場でそれぞれ4回開催しました。教室終了後は、元気な人も、生活機能の低下が認められる人も、お互いに支え合いながら活動を継続していく支援を行いました。

9 地域支え合い活動促進事業

地域の高齢者が主体的に担い手となって取り組む支え合い活動を支援するとともに、地域住民が担い手となり、高齢者が参加しやすい地域づくりに取り組む活動を支援しました。

1) 地域支え合い活動団体育成のための研修会の開催

名 称	開催日	参加者数
明石版（オンライン）無理しない地域づくりの学校 講師：竹端 寛氏・尾野 寛明氏	4月16日	計36名
	5月14日	
	6月11日	
	7月9日	

2) 地域支え合い活動の支援の取組

名 称	開催日	参加者数
地域づくりフォーラム 講師：竹端 寛氏・尾野 寛明氏	3月1日	計18名

地域での活動を広げるきっかけづくりとして、無理しない地域づくりの学校の昨年度の参加者にその後の取組を発表いただきました。参加者から、「多世代・男性の地域参加など、無理せず参加できるきっかけを考えたい」等の感想をいただきました。

10 多機関の協働による包括的支援体制構築業務

生活のしづらさを抱えた人を捉え、「たらい回し」といった事態が生じないように、

包括的に受け止める総合的な相談支援体制を構築するため、総合相談支援員会議にて連携課題を抽出し、その連携先を中心に各機関の役割や今後の連携について、意見交換を行いました。

<ネットワーク会議（研修・意見交換会）>

- ・ 4回／年（うち、あかし保健所と2回）

生活福祉課、あかし保健所相談支援課、後見支援センター

<支援件数（令和4年3月時点）>

- ・ 世帯数 53 件／年

11 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

担当地区内の要支援1・2認定者や、生活機能の低下している高齢者を対象に、身体機能の強化等により、介護状態となることへの予防を目的に、介護予防ケアプランの作成・評価を実施しました。また、法令遵守の徹底に関する周知やケアマネジメント実践力の向上に向けて、実践の振り返り等を実施しました。

1) 介護予防支援

包括担当 給付件数	内 訳		一部委託 給付件数	活動別件数（対象者・関係者）		
	新 規	継 続		訪問・面談	連絡調整	担当者会議
12,688 件	252 件	12,436 件	22,052 件	12,147 件	71,304 件	2,041 件

2) 介護予防ケアマネジメント

包括担当給付件数	内 訳		一部委託給付件数
	初 回	継 続	
7,191 件	205 件	6,986 件	10,418 件

○公益事業 地域総合支援センター事業拠点区分

【決算概要】

(単位：千円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (A) - (B)	備考	
事業活動収支	収入	介護保険事業収入	660,700	601,816	58,884	
		受取利息配当金収入	1	0	1	
		その他の収入	10	40	△ 30	
		事業活動収入計(1)	660,711	601,856	58,855	
	支出	人件費支出	572,935	542,302	30,633	採用職員の人員過少
		事業費支出	29,050	24,179	4,871	執行残
		事務費支出	42,121	20,015	22,106	執行残
		事業活動支出計(2)	644,106	586,496	57,610	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		16,605	15,361	1,244	
	施設整備等収支	収入	固定資産売却収入	0	33	△ 33
施設整備等収入計(4)			0	33	△ 33	
支出		固定資産取得支出	2,971	1,762	1,209	
		施設整備等支出計(5)	2,971	1,762	1,209	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 2,971	△ 1,728	△ 1,243		
その他の収支	収入	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
		支出	積立資産支出	13,619	13,618	1
	その他の活動による支出		15	14	1	
	その他の活動支出計(8)		13,634	13,632	2	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△ 13,634	△ 13,632	△ 2	
	予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	0	0		
前期末支払資金残高(12)		0	0	0		
当期末支払資金残高(11)+(12)		0	0	0		